

## 【資料1】第7期加賀市障がい福祉計画等策定のためのアンケート調査について

### 1 趣旨

本市の障がい者施策の基本的な理念や方向性等を示す、第7期加賀市障がい者計画・障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画策定に当たり、障がいのある人（子ども）の生活実態と意向を明らかにし、当該計画に反映させるため、アンケート調査を実施。

### 2 調査方法

#### (1) 調査対象の選定

18歳未満は、手帳所持者と手帳未所持者の障がい福祉サービス利用者と医療的ケア児を対象とし、合計121人と人数が少ないため全員対象。

18歳以上については、身体・知的・精神の各障がい者手帳所持者及び精神通院医療（自立支援医療）給付者の中から、圏域別・障がい別に無作為抽出した500人の者を対象。なお、標本サイズ500人は、第6期計画策定時に実施したアンケート調査の回収率60.9%を参考に、統計学上の見地から標本サイズを決定する一般的に使用される算式により算出したもの。（今回は手帳所持者以外の当事者を抽出するため精神通院医療（自立支援医療）給付者を含めた）

#### (2) 調査期間

令和5年8月16日～10月13日（当初期間より延長）

### 3 調査票の回収状況

回収数 320通 内訳：18歳未満 72通、18歳以上 248通

※送付数621通 回収率51.5%（18歳未満 59.5%、18歳以上 49.6%）

	全体		身体	知的	精神	手帳無
	回収数	回収率	回収数	回収数	回収数	回収数
18歳未満	72	59.5	24	48	6	4
18歳以上	248	49.6	178	34	38	15
計	320	51.5	202	82	44	19

\*身体、知的、精神、手帳無の区分は参考数値（アンケート回答より抜粋）

\*身体、知的、精神の数値は重複あるため、4区分の合計は全体数と合致せず

## 4 調査結果の概要

アンケート調査結果は18歳以上、18歳未満それぞれでまとめたもの。

結果内容は、グラフに出来るものは、障がい種別（身体・知的・精神）と手帳無の4区分で比較できるよう記載。

各設問の回答の傾向は、グラフもしくは表の下にそれぞれ記載。

アンケート調査から読み取れる主な内容を以下に抜粋

### 問21 不安に思っていること

#### \*18歳以上

身体では「身体や健康のこと」、知的は「親や介護者の高齢化のこと」、精神は「収入や生活費のこと」と回答した人の割合が最多となり、障がいによって、不安の対象が異なる。

ただし、「災害や緊急時のこと」では、それぞれ20%台の割合。

#### \*18歳未満

身体・知的では「災害時や緊急時のこと」、精神は「就職や仕事のこと」と回答した人の割合が最多となり、障がいによって、不安の対象が異なる。

\*全体では、それぞれの障がい区分で不安の対象は異なるが、「災害時や緊急時」への不安が年齢にかかわらず選ばれている。

### 問23 将来、どのように暮らしたいか

#### \*18歳以上

身体・精神では「家族などと暮らしたい」、知的では「グループホームで暮らしたい」「福祉施設(障がい者支援施設や高齢者支援施設)で暮らしたい」が同率で最多。

#### \*18歳未満

どの障がいでも「家族などと暮らしたい」が最多。

\*全体では、「家族と暮らしたい」が多く、それぞれの地域で暮らすことを望んでいると思われる。

### 問24 地域で生活するために必要なこと

#### \*18歳以上

「経済的負担の軽減」がどの障がいでも最多。次いで身体では「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」、知的では「障がい者に適した住居を確保すること」、精神では「相談支援体制の充実」が多くなっている。

#### \*18歳未満

身体・知的では「経済的負担の軽減」、精神では「地域の障がい理解」が多くなっている。

\*全体では、「経済的負担の軽減」が望まれている。

## 問27 外出の目的

### \*18 歳以上

どの障がいでも「買い物に行くため」が最多。手帳無が「医療機関への受信」が最多。

### \*18 歳未満

身体・知的・手帳無では「通勤・通学・通所」が最多。知的は「通勤・通学・通所」と「医療機関への受診」が同率最多。

\*全体では、年齢的なものを除けば、「医療機関への受信」がどの障がい区分でも選ばれており、重要な外出となっている。

## 問28 外出時に困ること

### \*18 歳以上

「特にない」を除いて、どの障がいでも「公共交通機関が少ない(ない)」が最も多い。手帳無では「公共交通機関が少ない(ない)」と「困った時にどうすればいいのか心配」が同率で最多となっている。

### \*18 歳未満

「特にない」を除いて、身体で「公共交通機関が少ない(ない)」、知的で「困った時にどうすればいいのか心配」、精神で「公共交通機関が少ない(ない)」「切符の買い方や乗換の方法、予約(のりあい号)がわかりにくい」「困った時にどうすればいいのか心配」、手帳無で「発作など突然の身体の変化が心配」が最も多くなっている。

\*全体では、公共交通機関が少ないことや乗り換えなど、公共交通に関する困りごとが選ばれている。

## 問31 今後、収入を得る仕事をしたいか

### \*18 歳以上

「仕事をしたい」割合が身体では 13.7%、知的では 44.8%、精神では 32.1%と差が見られる。どの障がい・手帳無でも約半数が「仕事はできない」と回答している。

仕事に対する意欲が低い状況となっている。

## 問32 障がい者の就労支援として、必要なこと

### \*18 歳以上

知的では「通勤手段の確保」、身体・精神・手帳無では「短時間勤務や勤務日数などを体調などにあわせて選択できるしくみ」が最多となっている。

総計では、「短時間勤務や勤務日数などを体調などにあわせて選択できるしくみ」が多く、障がい特性に合わせた働き方が望まれている。

問34 今後、利用したいサービス

\*18 歳以上

「地域活動支援センター」と「就労継続支援(A型・B型)」が最も多く、次いで「居宅介護」、「短期入所」、「施設入所支援」が同率。

\*18 歳未満

「放課後等デイサービス」が最も多い。次いで「短期入所」、「児童発達支援」が同率。

\*全体では、年齢にかかわらず通所系サービスが多い傾向で、日中過ごせるサービスが望まれている。

問38 どのようなときに差別や嫌な思いをしたか

\*18 歳以上

身体が「お店などの店員の対応」、知的・精神では「職場や学校でのつきあい」が最も高い割合を占めている。

\*18 歳未満

どの障がいでも「職場や学校でのつきあい」が最も高い割合を占めている。

\*全体では、「職場や学校でのつきあい」が多く、日中を過ごすことが多い場での経験が考えられる。

問41 火事や地震などの災害時に困ること。

\*18 歳以上

身体では「投薬や治療が受けられない」、知的・精神では「避難場所の設備(トイレなど)や生活環境が不安」が最多となっている。

\*18 歳未満

身体では「投薬や治療が受けられない」「安全なところまで、迅速に避難することができない」、知的では「安全なところまで、迅速に避難することができない」、精神では「投薬や治療が受けられない」が最多となっている。

\*全体では、「避難場所の設備(トイレなど)や生活環境が不安」が多く、次に「投薬や治療が受けられない」、三つ目に「安全なところまで、迅速に避難することができない」となっている。慣れない場所での避難生活への不安や速やかに避難できないことが挙げられている。